



オンライン教育革命

●
府川伊三郎 Isaburo FUKAWA

株式会社旭リサーチセンター・日本化学会 フェロー



「いつでも、どこでも、誰でも」、一流の大学講義を無料（一部有料）で受けられるムークが世界的に拡大している。ムーク（Massive Open Online Course：MOOC）とは、ウェブサイトで公開され、世界中の人が受講できる大規模公開オンライン講義のことである。講義を受けて、課題を解き、試験に合格すれば認証をもらうことができる。

2006年にカーンアカデミー（NPO：サルマン・カーンが個人的に設立、現在4,400本の教育ビデオを提供中）が世界に向けてムークスを始め、2012年にはエデックス（MITとハーバード大学のコンソーシアム。現在29校がパートナーとしてオンライン講義作成に参加し、67コースを提供中）や、ベンチャー企業のユダシティ（スタンフォード大学教授らが設立。20人の教授によるコンピュータ・サイエンス関係中心に28コースを提供中）とコーセラ（スタンフォード大学教授らが設立。83大学が参加し、435コースを提供中）や、フューチャーラーン（英国の放送大学が設立、21大学が参加）が矢継ぎ早に設立され、本格的なオンライン教育が始まった。2013年2月に東京大学がコーセラに、5月に京都大学がエデックスにパートナー校として参加した。

ムークは従来の大学教育に比べ各段にコストが安いことが特徴で、さらに双方向学習などの最新ソフトを駆使しており、従来の教育の壁を超える教育効果が期待されている。今後、学習者の範囲は広がり、様々なビジネスモデルが生まれるであろう。

将来、このムークが既存の大学の単位と認められて正規授業を代替するか、さらに正式の大学として認められるかが注目される。大学は当初、授業の多様化や補助としてムークを導入するであろうが、本格的な導入や正規授業の代替についてはどう考えるだろうか。

日本は英語という言語の壁に守られ、オンライン教育についての認識や問題意識に欠ける恐れはあるが、その分時間的余裕があるともいえる。日本の優れた教育や教育法を組み込んだ独自の日本語版ムークを作成するチャンスである。放送大学という基盤もあるのでこれを活用して、大学が中心となって作り上げ、国内やアジアに提供してほしい。

オンライン情報革命がネットバンキング、ネットショッピング、電子図書、ソーシャルネットワークと広がり、いよいよオンライン教育革命の時代の到来か。マイクロソフト、グーグル、アマゾン、フェイスブックのようなベンチャーが誕生し、世界にオンライン大学が設立されるかもしれない。ムークは世界中の学びたい人を対象に無料の社会貢献で始まったが、普及するところにはだいぶ違った情景になっているに違いない。

（参考）府川伊三郎、「オンライン教育革命」、Business Research, 企業研究会, 11・12月号, 73-80 (2013年)

© 2013 The Chemical Society of Japan